

僕たちがやっているのは、  
“永遠の真実”へと誘うメディテーションアルバム  
音楽をマントラにした瞑想



「ピアニスト」  
ウオン・ウインツァン

「ネイティブフルート奏者」  
真砂秀朗



「アメージング・ブルー」(1996年)、「グレート・ミステリー」(2003年)と、即興演奏による“無意識的”セッションを追求し、2枚のコラボレーションアルバムを発表してきたウオン・ウインツァン氏と真砂秀朗氏。彼らはこの3月、7年周期の第3弾となるニューアルバムのレコーディングを終わらせた。そこで、音源の編集作業に入る前の2人に、レコーディングを振り返りながら、このシリーズの持つ意味合いや最新作の聴きどころを伺った。

取材・文◎高田晋治  
Interview & Text by Shinji Takada  
写真◎羽後 栄、松本英明  
Photographs by  
Sakae Hanochi ,Hideaki Matsumoto

「即興」で楽器の対極性を  
乗り越える

——7年ぶりとなるお2人のコラボレーションアルバム第3弾のレコーディングが、ついにフィニッシュしたそうですね。

ウオン レコーディングが終わったのは、ちょうど3日前ですね。真砂さんの自宅のある湘南・葉山で、福祉文化会館というコンサートホールを借り切って、そこにレコーディング機材を持ち込んで、2月25〜28日の4日間ぶっ続けてレコーディングしました。ぶっ続けといっても、別に過酷なレコーディングをやったわけではないですが(笑)、事前に特に打ち合わせをすることもなく、「自分をさらけ出す」ということだけをテーマに演奏をしました。

真砂 僕も意識したのは、「release(精神の解放)」ということだけですね。とにかく偶然性、即興性だけを大切に、予定調和しないように心がけました。

——お2人がコラボレーションするときには、「即興」が重要なポイントになるんですね。それをいかに突き詰めるかということだけがテーマだから、特に打ち合わせする必要も

なかったということでしょうか。

**ウオン** そうですね。僕がピアノで真砂さんがインディアンフルート。それぞれの持つ楽器がまるで違うので、意図的に合わせるのには限界があるんです。片や西洋音楽の権化のような、軽く1000万円以上もする楽器。片や民族音楽を奏でる、ほとんど手作りの楽器。

もちろんインディアンフルートを軽く見ているわけではなくて、この値段の差には、人工的な12平均律という音階を再現するために、精巧に加工しつくされた楽器と、自然の音を再現するために、天然の素材をそのまま生かした楽器、という違いがあるわけなんですよ。

**真砂** インディアンフルートは多くの人にとって馴染みのない楽器だと思いますが、他の民族楽器がそうであるように、言葉にできない、心声声を伝えるためにできたものなんです。

実際、先住民の間では、男性が女性に愛を打ち明けるときなどに、この笛が吹かれています。つまり、インディアンフルートは、人や生き物が声を震わせて思いを伝えるように、音色の美しさや音のニュアンスを追求してきた楽器なんです。

目の前にいる人、近くにいる人の

心の本当に奥深いところまで響かせ、聴かせることを目的としているので、音色と対立する要素である音量や音域は、ほとんど考慮されていないんです。

逆に、ピアノをはじめとした西洋楽器は、大きな場所でも多くの人に聞かせるために開発されているので、どちらかといえば、音量や音域を重視しているんですね。楽器のコンセプトがまるで違うんです。

**ウオン** 民族楽器は理屈で理解できるものではないし、理解すべきものはないんですね。だから僕たちが、より理想的なセッションを目指すのなら、互いに音を響かせ合いながら、その日、その時の、最もいい調和のあり方を模索するのが一番なんです。事前に形を作り込んでしまうと、その自由がなくなってしまう。ぶっつけ本番の即興にこだわるのはそのためなんです。

楽器の違いを乗り越えるには、プレイヤーである僕たちが、互いの文化的背景の接点を見つけ出すことが必要なんです。2人ともアジア人であることとか、DNAに刻み込まれた記憶のレベルに遡って、文化的な共通性を見出さないとできない。

僕たちは即興で演奏しながら、そういう共通の地平を目指し、アドリブで普遍的な曲作りをしているという事なんです。真砂さんとの演奏には、実はそういう醍醐味があるんですね。

### 音楽は、人々を無意識世界へ誘うサイン

——14年前に共演された第1弾CD『アメリカン・ブルー』の解説に、お2人のコラボレーションを企画された真砂さんの奥さん（真砂三千代さん）が、「楽器を持つ対極的な要素を超えて解け合う不思議な調べに、遠い記憶が目ざめてゆくのを感じた」

### ウオン・ウィンツァン

Wong Wing Tsan

ピアニスト、作曲家、編曲家。19歳のころからジャズ、前衛音楽、フュージョン、ソウルなどを演奏。88年、瞑想の体験を通して自己の音楽の在り方を確信し、ピアノソロ活動を開始。超越意識で奏でる透明な音色で「瞑想のピアニスト」と呼ばれている。

### 真砂秀朗

Hideaki Masago

アーティスト、ネイティブフルート奏者。独自の音楽表現とともにヴィジュアルアートにおいて創作活動をする「絵と音」のアーティスト。世界各地のネイティブカルチャーへの旅の体験と印象から、多くの絵や音で表現している。

とコメントを寄せられています。シリーズのテーマは、まさにそこに表れているんですね。

**真砂** そのテーマの集大成というか、それが最も成功したのが今回のレコーディングだと思います。特に僕は14年前、まだインディアンフルートの奏者としてデビューしたばかりで余裕がなかったし、7年前の『グレート・ミステリー』のときは、逆にいろいろな蓄積ができて、自分のレパートリーを出したい気持ちが強かった。六拍子をやろうとか、日本の曲をジャズ風にやろうとか、僕たちの形を作ろうやろうとしていたんですね。今回は、何も考えないところに立つてレコーディングに臨みました。

そういう意味で、この7年間の互いの成長や変化を、ぶっつけ本番のセッションの中ですごく新鮮に感じ取ることができたし、そのワクワク感みたいなものが、すべての曲の中に反映されたと思います。



——アルバムを作ることにピュアになっ  
ているんですね。

**ウォン** 純粹性の追求ですよ。そ  
もそも人と人は、純粹意識という無  
垢な心でつながっているんですよ。  
僕はその、人々が持つ純粹意識に、広  
く訴えかける普遍的な音楽を作りた  
いんです。

無垢な心持ちで出した音には、純  
粋性が刻まれるんですよ。そしてそ  
の純粹性が刻印された音は、聴き手の  
耳を通して心の一番奥底に入ってい  
き、リスナーの純粹性を活性化する。

僕は、音楽をすることの意味を模  
索しているときに、そのことに気づい  
たんです。そしていまも音楽家とし  
て純粹性を追求し続けているという  
ことです。



**真砂** 僕たちがやっているのは、音楽  
をマントラにした瞑想なんです。

音楽は手段であって、その本質は、無  
意識の世界に降りて行き、そこで世  
界中の人たちとつながり、響き合う  
ことなんです。演奏や作曲りは、無  
意識の世界に降りて行く共通のサイ  
ンをつくることだと考えています。

実際に僕たちは、演奏する前にピ  
アノの音を使って瞑想するんですが、  
言ってみれば、自分たちが音楽をマン  
トラとして瞑想し、そのことによつて  
瞑想の手引きとなるマントラ楽曲  
を作つてリスナーの皆さんに提供し  
ているということなんです。

**ウォン** 音楽も踊りも、そもそもは  
アニミズムの世界のものなんです。自  
然の中に存在する神や超越的な存在  
とかかわるときに、人々は歌ったり、  
踊ったり、楽器を奏でたりした。つま  
り、音楽は人間が超越的なものに結

び付いていくための手がかりとして  
存在したわけです。人々は、音楽を通  
して自然や宇宙とのつながりや調和  
を感じ、安心や安定を得ていた。僕ら  
ミュージシャンは、リスナーをそうい  
う精神状態へと誘う存在だと思っ  
ています。

実際、僕は、若い頃ニヒリステイ  
クなものを見方をする人間だったの  
ですが、瞑想することによって、自分  
の存在を全面的に肯定できるよう  
なつた。だから、心の深い奥底に、全  
人類、全生命に共通の真理・真実があ  
り、それがすべての存在を肯定して  
いることを伝えたいんです。今回は、  
そのことをより強く実感したし、純  
粋性を刻印するという点でも成功し  
たと思う。そういう意味から、このア  
ルバムのタイトルは、『エターナル・  
トゥルース（永遠の真実）』がいいか  
など、いま考えています。

**真砂** 人間が言葉で考えていること

は物事の表面的な部分でしかなく  
て、たとえそこで孤独を感じても、僕  
たちは、実はもっと深いところで他の  
存在とつながっているんですよ。  
普通に生活をしていたら、表面的な  
思考から一瞬たりとも離れることが  
できないけど、それは、実は、ある種の  
思い込みのようなものなんです。多  
くの不安は杞憂にすぎないんです。

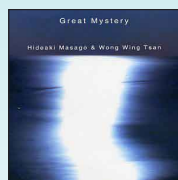
そこから離れることができれば、す  
ごくリラックスできるし、自分で何か  
に気づくきっかけにもなるんじゃない  
でしょうか。そのために、メイデー  
ションとして是非、僕たちのニューア  
ルバムを聴いてもらいたいし、今後の  
コンサートにも、足を運んでもらいた  
いです。

※マントラ 瞑想のための呪文のようなもの

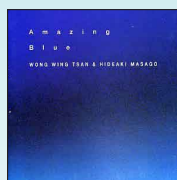
最新  
アルバム



【Eternal Truth】  
2,835円(税込)  
AWCA-013



【Great Mystery】  
2,835円(税込)  
AWCA-009



【Amazing Blue】  
2,854円(税込)  
AFA-0001

#### information

7月24日◎福岡・アクロス福岡円形ホール/ 18:30開場 19:00開演  
【お問い合わせ】サブウェイ TEL:090-1876-7913 sub\_way001@ybb.ne.jp  
8月22日◎葉山・葉山町福祉文化ホール/ 17:00開場 18:00開演  
【お問い合わせ】アファ TEL:046-876-2205 afa@lifeafa.jp